

「将来を担う人材と文化を育むまち」づくりに向けて

日頃から、本町の教育行政に深いご理解とご協力を賜っておりますことに対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。

さて、教育委員会では平成28年から町振興計画により、本町の新たな教育基本目標となった「将来を担う人材と文化を育むまち」つくりに向かってスタートを切ったところであります。そんな中で、同年6月23日、文部科学省から次期学習指導要領の議論の取りまとめ（案）が公表されました。

その概要は、およそ

- 教育界には、変化が激しく将来の予測が困難な時代にあっても、子供たちが自信を持って自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創りだしていくことができるよう、必要な資質・能力をしっかりと育てていくことが求められている。
- 学校教育が目指す子供たちの姿と、社会が求める人材像の関係については、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、自分なりに試行錯誤し新たな価値を生み出していくことであるということ。そのためには生きて働く知識を含む、これからの時代に求められる資質・能力を学校教育で育成していくことが重要であるということを、学校と社会とが共通の認識として持つことができる好機にある。
- こうした資質・能力の育成は、よりよい学校教育を通じてよりよい社会づくりを目指すという目標を社会と共有しながら、学校教育を通じて子供たちにどのような資質・能力を育成するのかを教育課程において明確にし、社会と連携・協働しながら育んでいこうとするものである。
- これからの時代に求められる資質・能力は、情報活用能力や課題解決能力なども 含め、特定の教科等だけではなく、すべての教科等のつながりの中で育まれるものである。
というものである。

この資質・能力については、すでに四年前から本町が育成を進めているキャリア教育の中核（基礎的・汎用的能力の育成）をなすものです。基礎的汎用的能力には、コミュニケーション・スキルやチームワーク等の人間形成・社会形成能力、自己の役割の理解や忍耐力等の自己理解・自己管理能力、情報を理解選択処理する等の課題対応能力、学ぶ働くことの意義や役割の理解そして将来設計等のキャリア・プランニング能力が挙げられます。

そこで今年は、昨年夏に実施したキャリア教育シンポジウムで連携を図ることのできた文科省の方々の力も借りながら、各幼小中学校とともにPDCAサイクルのもと試行錯誤を繰り返しながら、よりよい学校づくりを進めるとともに、町・地域社会が必要とする「将来を担う人材」の育成など、学校、町、地域社会が一体となったキャリア教育を推進していきたいと考えています。

次に、「文化を育む」につきましても、「歴史の町棚倉」として国指定を目指している棚倉城の調査を更に進めながら、本町の有形・無形の歴史的遺産の価値を全国にアピールすべく、昨年も「棚倉藩評定」をはじめ歴史講座や歴史探訪などの行事を充実させてきました。また、社会教育として「だがしや学校」などの新しい分野、行事も開拓し充実してまいりましたので、来年度も様々な角度から多くの講座を開設する予定としております。どうぞご期待ください。また、ご協力よろしくお願いいたします。